



留学生受入の意義

徳島大学副学長（国際担当）・国際センター長

細井和雄



平成 26 年 4 月 1 日付で副学長（国際担当）・国際センター長に就任致しました。国際センター長に任ぜられるのは今回で 2 回目になりますが、どうぞよろしくお願い致します。

前回センター長就任当時、本センターニュースに留学生交流の意義に関する文部科学省の考えを引用致しました。それは、1. 諸外国との相互理解の増進と人的ネットワークの形成。2. 途上国の人材育成・知的国際貢献。3. 日本自身あるいは日本の大学の国際化や国際競争力の強化一などです。そして 1、2 は従来より指摘されてきたことですが、3. は国際的に通用し、リーダーと成り得る日本人を育成し、国際的競争環境の形成を通じて教育研究における国際的通用性・共通性を向上させることでこれからの留学生事業の方向性として重要であるとされておりました（徳島大学留学生センターニュース No 9、2007）。

3. の項目を文部科学省はすでにこの頃から今後の留学生事業の方向性として重要視しており、近年に至り、「グローバル化」、「グローバル人材育成」の言葉の下、さらに強調・推進され大学改革の一環として取り組むことが求められるようになりました。今日、留学生受入の増加に加えて、日本人学生の海外派遣、外国人教員の増加なども求められています。その示唆は既に 7 年前から存在していたこととなります。

一方、「教育」「友好」「国際協力」のための留学生の受入れを目的とし、2000 年までに 10 万人の受入れを目指すとした「留学生 10 万人計画」は 1983 年に中曽根元首相により始められました。これは 3 年遅れの 2003 年に達成されました。続いて 2008 年、日本政府は「留学生 30 万人計画」を発表しました。日本への留学生を、2020 年までに、当時の 14 万人から 30 万人に増やすという計画です。

なぜ留学生受入増加が重要な課題であるか、上記の意義に加えて主に 2 つほど、理由が考えられます。第 1 は背景に世界の留学生人口が増加していることが挙げられます。2003 年において日本が受入れていた留学生は 10 万人ですが、これは当時の世界の留学生人口、200 万人の 5% に相当します。オーストラリアの研究機関の調査予測では 2020 年には世界の留学生人口はおよそ 600 万人に増加するとしています。そこでその時点で現在日本が受け入れている対世界留学生人口の 5%、すなわち 30 万人を維持し、日本の世界における発言力を保ちたいとの政治的意図があります。第 2 に、留学生受入数は世界大学ランキングを決める際の要素のひとつであることが挙げられます。研究業績が大学のランキングを決める重要な要素ですが、これに加えて、他の要素も影響致します。例えばイギリス「タイムズ・ハイアー・エデュケーション誌」の 2010-2011 年の審査基準では、教育 30%、研究 30%、引用度（リサーチインパクト、特に高いインパクト）32.5%、国際的混合（外国人教員や外国人学生の割合）5%、企業基金受入 2.5%、とされています（国際的混合は 10% であったこともあります）。

このように留学生増加と大学の国際評価（或いは日本の留学生政策に対する国際評価）は相互に正の関係の構図になっており、留学生受入を増加させる努力が今後ますます求められることになると思われます。

国際センターは今後も受入留学生に対する日本語日本文化理解を向上させるための教育、生活・学業上の問題に対する相談などを行うとともに本学の国際化推進・グローバル化推進に支援を行ってまいります。各部署の教員各位には今後ともセンターの運営と国際交流発展にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

国際センターサマースクール「徳島であおう」



サマースクール参加者との集合写真

2014年8月1日(金)から10日(日)まで、徳島大学国際センターが主催するサマースクール、「徳島であおう」を開催しました。今回は、ベトナム、インドネシア、スウェーデン、マレーシア、韓国、台湾、中国の7か国・地域(計14大学)から50名の学部学生が参加し、(1)県庁訪問などを通じた日本人学生とのピア・ラーニング、(2)キャンパスツアーや研究室訪問などを通じた徳島大学に関するアカデミックな学び、(3)茶道・邦楽体験、人形浄瑠璃体験、企業見学といっ

た日本文化・社会体験学習を提供することができ、非常に充実した内容となりました。

今年の新しい試みとして、複数のサマープログラムを対象とした「人形浄瑠璃体験」、日本語授業の発表見学、霊山寺ならびに大塚国際美術館の見学を取り入れました。特に、「人形浄瑠璃体験」および日本語授業の発表見学は、センター教員が担当する共通教育「日本事情」・「日本語」クラスと連動して活動を展開しました。共通教育を受講している本学留学生が人形浄瑠璃についての情報を調査し、説明文を作成し、その説明を当日日本語・英語・中国語で発表するという形式や、留学生が日本語



ピア・ラーニング：県庁訪問



徳島ビジネス体験：大塚製薬訪問

の授業でこれまで学習した日本語を駆使して作成したキャッチコピーを、日本語で日本人学生・地域からの参加者、サマープログラムの参加者に発表したりしました。

上記の学習体験に加え、各部署に依頼して行った研究室訪問、日本人学生との意見交換、合同交流会での和太鼓(上板風神太鼓)、阿波踊り体験に対しても非常に高い評価を得ました。特に、研究室訪問に関しては、「研究室の先生はとても丁寧に説明してくれた」、「研究室はとてもハイテクで、学生自身が制作に取り組んでいるものもたくさんあった」、「このラボツアーでさらに徳島大学に留学をしたくなった」とい

う声も聞かれ、今回の研究室訪問は、本学における学部レベルの交流を進めていく上で非常に有意義であったと考えています。

台風の影響で予定を変更せざるを得ない日もありましたが、予定していた活動を終え、全員無事に帰国しました。



ひょうたん島クルーズ



徳島文化体験：藍染



徳島文化体験：渦の道 見学



日本文化体験：茶道



大学紹介：研究室訪問



徳島文化体験：人形浄瑠璃

JENESYS2.0を受け入れて

今年度、徳島大学は日本国政府の青年招へい事業の1つである JENESYS2.0 (Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youth 2.0)を前期2回受け入れました。4月18日に歴史・文化をテーマにした第7陣マレーシア大学生・大学院生グループ(26名)を、6月20日に科学技術・ものづくり・先端技術をテーマにした第15陣シンガポール大学生(23名)を受け入れました。どちらの陣も約一週間の徳島滞在中の1日を「学校交流」プログラムとして本学を訪れました。学長によるオープニング・セレモニーでの挨拶、訪問団学生による「お国事情」発表後、日本人学生からなる学生サポーターとの意見交換・キャンパスツアーや地域住民からなる地域サポーターも交えた文化体験などが行われました。また第15陣の午後は創生学習センターを軸に工学部の大学院生及び学生と教員によるデモンストレーション・実験の見学後、工学部日本人学生との意見交換も行なわれました。当該国全地域からの選抜メンバーによる JENESYS グループが、帰国後徳島及び徳島大学での経験を自国の周りの人たちに大いに広めてもらえればと期待しています。後期も引き続き実施したいと考えています。



第15陣 サポーターと大学本部前で



第7陣 意見交換



第7陣 学長との記念撮影



第15陣 工学部訪問



第15陣 学食にて

国際センター 最近の活動

留学生交流拠点整備事業『とくしま異文化キャラバン隊』

「とくしま異文化キャラバン隊」は今年で二年目を迎え、チラシやホームページで活動を知ったという組織や団体からの依頼も受けながら、本格的に活動を実施しています。徳島市内を中心とした(美術館・徳島マルシェ・遍路体験・講演会と交流会等)出会いの場づくりの活動、美馬市を中心とした西部地域での活動(来年2月のオデオン座での演劇上演に向けて)、そして南部の美波町日和佐地区の「地域がキャンパス」との連携事業等です。来年は本事業の総括として「多文化共生のまちづくり」の提言を作成します。今後も県内の留学生と地域の人たちをつなぐ様々な活動を展開していきます。

本事業の詳細と活動記録はホームページにてご覧ください。



異文化キャラバン隊 HP

<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/caravan/>



6月 徳島マルシェ



2月 脇町劇場 オデオン座



7月 ホームビジット (美馬市)

学校訪問

国際センターでは、留学生と共に小・中学校の「国際理解教育」を支援する活動を徳島県教育委員会と共に実施しています。小・中学校の要請に応じて、留学生の①日本語使用②英語使用の2つのパターンで行っています。日本語を使って国際理解を進める活動では、お国紹介・各国語挨拶練習・学校文化紹介・各国の子供の遊び体験を行い、留学生が日本語を駆使して行うことで、子供達は外国語習得の有効性や必要性を実感し、留学生と一緒にいろいろ体験することで子供達の誰もが外へ目を向ける第一歩がスムーズに踏み出せるなどの効果が見られました。前期は、福島小学校と加茂名南小学校で実施しました。

また英語を使った活動では、留学生が自分の国の

紹介をしたり、英語や留学生の母語を使ってゲームをしたりしました。小学生が外国人と出会い交流をし、別の言葉にふれあう貴重な機会を提供しています。前期は、小松島小学校で実施しました。



各国の遊び体験



ウガンダの遊び



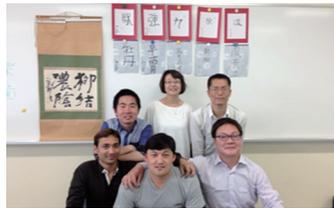
各国のこぼであいさつ練習



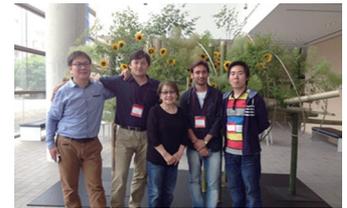
英語で質問

日本語研修コース（大学院予備教育）

2014年前期は4名の学生（中国2名・インド・モンゴル各1名）が、月曜日から金曜日まで、日本語と日本文化を集中的に学びました。学内での学習以外にも地域の日本人との交流活動を行いました。例えば、6月には藍住町国際交流協会とホームビジットを7月には研修旅行で美馬市の小学校を訪問し、簡単な日本語で国紹介をし、再びホームビジットも体験しました。このコースでは習った日本語を使って少しずつ自分を表現し、日本人とコミュニケーションをとりながら、各自の専門を支える基本的な日本語力の習得を目指しています。8月11日には最終スピーチを日本語で行いました。



書道の学習



いけばな体験



修了式

奨学金授与式



学生のスピーチ



授与式

藤井・大塚国際教育研究交流資金、徳島大学国際教育研究交流資金の授与式が、2014年7月1日（火）地域・国際交流プラザ（日亜会館）2階で開かれました。同授与式には、寄付企業4社、大学関係者11名、学生30名（藤井・大塚20名、国際交流資金10名）が参加しました。藤井・大塚国際教育研究交

流資金の奨学金受給学生代表として Hotimah Masdan Salim さん（インドネシア、医科学教育部 博士課程2年）、徳島大学国際教育研究交流資金の奨学金受給学生代表として陳玉亭さん（中国、先端技術科学教育部 博士前期課程2年）が御礼のスピーチをしました。

ホームページリニューアル

今年の4月に、国際センター公式ホームページをリニューアルし、運用を開始いたしました。今回のリニューアルでは、システムのセキュリティ強化に加え、内容の更新を容易にするためのシステムを導入し、留学生ならびに日本人学生に対する情報をより効果的に発信するための変更を行いました。

内容面に関しては、(1)新着情報・行事予定・奨学金情報の充実、(2)各種申請用紙などの整理、(3)これまでの出版物・印刷物に関する情報の整理を主に行いました。また、トップページには、留学生向け奨学金情報だけでなく、日本人学生を対象とした留學用奨学金情報もすぐにアクセスできるように工夫しました。

今後は、これまで提供してきた留学生向け奨学金情報やイベント情報に加え、「トビタテ！留学 JAPAN」などの日本人学生を対象とした留學情報（各種留學に関する説明会・相談会の情報や留學奨学金情報などの情報を含む）もアップしていきます。

【徳島大学国際センター 公式ホームページ】

- 日本語版 <http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/>
- 英語版 <http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/english/>



国際センター 新公式ホームページ

徳島大学に留学して

今回は、2名の留学生 Agustin Martin Morales さん（栄養生命科学教育部 博士前期課程2年）、鐘斌（ショウビン）さん（総合科学部交換留学生 武漢大学日本語学科3年生）に、本学での留學生活について寄稿してもらいました。

◎ Study abroad in the University of Tokushima

Agustin Martin Morales （栄養生命科学教育部 博士前期課程2年）

I always felt some attraction for Asian culture in general and for Japan in particular. I might have started because of my passion for manga and anime when I was a kid, but my interest kept on growing as I was getting older. I became so curious about Japan that I decided that I wanted to live in here, and I turned this idea in one of my main projects in life.

Since this is not obviously the main destination for foreign students, many people ask me why I chose Tokushima. And as many of the changes of our life it happened just by chance. I was living in England when I applied for the Monbukagakusho scholarship to become a graduate student in Japan, and it happens that in the university I was working there was a researcher colleague



阿波踊り体験（本人中央）

who collaborated with my current supervisor in Tokushima, Professor Terao. So I met Professor Terao in United Kingdom and we spoke about possible research topics for me. That is how I ended up in Shikoku Island. Many things have occurred since I arrived in April 2013. Japan is a very different country and Tokushima is a less populated city in the less populated main island, which makes living in Tokushima a unique experience with, both, unforgettable moments and also some tough ones. However I like to keep positive spirit and that is why I try to keep the good memories in Tokushima. I will really miss the summer nights listening Awa Odori



研究室でのお花見（本人右上）

Music and watching people practicing for the festival, I will not forget how fun it was to join Awa Odori festival and dance among local people.

I am now in the middle of my master in food science; I will be graduated by next year in September and what I would like is to keep on studying PhD course after that. I have not decided what university I would join but most certainly I will stay within Japan, probably I will enroll a PhD program in Japan and after that I am ready for life to take me to a new experience.

◎ 徳島での留学生生活を振り返って ～風は強いが、心は熱い～

ショウビン
鐘 斌（総合科学部交換留学生 武漢大学日本語学科 3年）

交換留学生として徳島大学で一年間勉強し、2014年8月中旬に中国に帰国しました。徳島大学では、日本語の能力が伸ばせただけでなく、日本文化もしっかり勉強することができました。徳島で学んだことはきっと将来、役に立つと思っています。

去年の10月、日和佐のお祭りに参加しました。ただ見るだけでなく、お祭りの服装をして、町の人と一緒にみこしを運びました。一緒にご飯を食べ、いろいろな交流をすることができました。まるで家族のような時間を過ごすことができた。日本らしい経験ができて、本当に良かったです。そのときの写真は大切にしたいと思います。



日和佐でのお祭り体験



人形浄瑠璃体験

これからも中国で日本語の勉強をつづけ、将来は日本語が活かせる仕事につきたいと考えています。徳島で得た日本語の知識や日本文化への理解は、私の一生の宝物になりました。中日関係をよりよいものにするため、中国人の友達にも自分が経験したことを話し、本当の日本人のやさしい姿を伝えたいと思っています。



海外留学情報

国際センター 夏期海外研修

国際センターでは、これまで、アメリカ（南イリノイ大学）、オーストラリア（モナシュ大学）、中国（復旦大学）、韓国（慶北大学）への夏期海外研修（2週間～約1カ月）を行ってきました。今年度は、研修先を2カ所増やし、アメリカ ロサンゼルスにあるカリフォルニア大学アーバイン校（University of California, Irvine）と、インドネシア ジョグジャカルタにあるガジャマダ大学（Gadjah Mada University）にも学生を派遣しました。

各プログラムの日程、および参加人数は以下の通りです。

※今回、アメリカ 南イリノイ大学と中国 復旦大学のプログラムには応募者がいなかったため、省略しています。

オーストラリア モナシュ大学：English Language Centre

期 間：9月2日（火）～9月28日（日）

研修内容：English Language Centre での英語トレーニング、および環境保護体験学習

参加者：7名（工学部2名、総合科学部4名、医学部1名）

アメリカ カリフォルニア大学アーバイン校：International Programs

期 間：9月3日（水）～9月28日（日）

研修内容：International Program が提供する 4-Week Conversation & Culture を受講

参加者：5名（先端技術科学教育部1名、工学部2名、総合科学部2名）

韓国 慶北大学校 夏休み韓国文化体験コース

期 間：8月11日（月）～8月23日（土）

研修内容：韓国文化の体験および慶北大学校学生との交流

参加人数：5名（総合科学部3名、工学部2名）

インドネシア ガジャマダ大学：サマープログラム DREAM

期 間：8月9日（土）～8月24日（日）

研修内容：ガジャマダ大学が提供するサマープログラム DREAM に参加

参加人数：3名（総合科学教育部1名、総合科学部1名、医学部1名）

2015年3月には、モナシュ大学（オーストラリア）での環境保護活動をテーマとした研修と、オークランド大学（ニュージーランド）での英語研修を行うように予定しています。

後期 交換留学説明会・相談会

後期交換留学説明会の日程は以下のとおりです。夕方の部では、留学に関する相談も併せて行いました。

日程 & 場所

- 10月2日（木）常三島地区 12:00～12:40 18:00～19:30(4号館302教室)
 - 10月3日（金）蔵本地区 12:00～12:40 17:00～19:30(蔵本会館2F 国際課蔵本分室)
 - 10月6日（月）常三島地区 12:00～12:40 18:00～19:30(4号館302教室)
- ➔ 内容：留学計画、奨学金情報、具体的な準備内容 など

「トビタテ！留学JAPAN」の募集が始まります！

昨年度から始まった「トビタテ！留学 JAPAN」は、官民協働の奨学金で、日本の次世代を担う人たちを育成することを目的としたプログラムです。この奨学金制度は、(1) 従来のようなアカデミックな留学を支援する奨学金と違い、ボランティアやインターンシップなどの多様な留学も奨学金の対象としている、(2) 英語力や学業成績よりも、「人に、社会に貢献したい」、「これからの日本に、世界に貢献したい」などの「夢」や「志」を重視する点で非常に画期的な奨学金制度です。



<https://tobitate.jasso.go.jp/#about>

昨年度は、理系の学生を対象とした「自然科学系、複合・融合系人材コース」、人文社会系の学生を対象とした「新興国コース」、「世界トップレベル大学コース」、スポーツ、ボランティアなどを希望する学生を対象とした「多様性人材コース」といった4つのコースが設定されていたのですが、2015年春からは、新たに「地域人材コース」の募集も始まるようです。今年度（第二期生）の募集は、この10月から開始されています。学生の積極的な応募を期待したいと思います。

トビタテ！留学 JAPAN 説明会 日程 & 場所

- 10月7日（火）蔵本地区 12:00～12:40 17:00～19:30 蔵本会館2F 国際課蔵本分室
- 10月8日（水）常三島地区 12:00～12:40 18:00～19:30 共通教育 4-305
- 10月9日（木）常三島地区 12:00～12:40 17:00～19:30 共通教育 4-305
- 10月10日（金）常三島地区 12:00～12:40 17:00～19:30 共通教育 4-305

→ 内容：トビタテ！留学 JAPAN 概要説明、留学計画相談 など

◎ 「トビタテ！留学 JAPAN」の魅力

井上 琢斗（徳島大学大学院 先端技術科学教育部 2年）

私は、2014年10月より1年間、カンボジアで医療の質改善の活動を行う予定で、この度、トビタテ！留学 JAPAN の第一期生として採択されました。トビタテ！留学 JAPAN は、給付型の奨学金プログラムで、政府と民間企業が協働して運営しています。本プログラムは、給付額の高さもさることながら、事前・事後研修にも力を入れており、これまでにない手厚いバックアップが特徴です。

私が考えるトビタテ！留学 JAPAN の最大の魅力は、留学生コミュニティができることです。一人ひとりが魅力的で、いくら話しても話し足りない、そんな人たちとつながれる。そこに私は大きな価値があると感じています。これは単に楽しいというだけではありません。留学先での活動のブラッシュアップ、現地協力者の紹介や休暇の楽しみ方など、様々な情報を共有し、留学プランをより充実したものにできる関係を築くことができます。さらに、学生主体のコミュニティを活かしたプロジェクトも立ち上がってきています。ビジネスに繋がるものから、エンターテインメントなものまで、現時点でも様々なプロジェクトが存在しており、コミュニティ内は、さながらシリコンバレーのようです。

私は、人生を豊かにするものは物ではなく、やはり人だと思います。それぞれ行き先や目的もバラバラですが、だからこそ学ぶことはたくさんあって、互いに協力しあって、一緒にいられる時間を大切にする。そんな人間関係がそこにはあります。ぜひ、一人でも多くの学生が、このコミュニティに参加してくれることを心待ちにしております。

発行 徳島大学国際センター

住所 徳島県徳島市新蔵町2-24 徳島大学地域・国際交流プラザ（日亜会館2階）

Tel.088-656-7491 <http://www.isc.tokushima-u.ac.jp>